第35号様式（第85条関係）

地球温暖化対策実施状況報告書

令和　6　年　7　月　12　日

名古屋市長　様

報告者　住　所　名古屋市熱田区川並町２番１２号
氏　名　愛知機械工業株式会社
取締役社長　和田　民世

（代理者）氏　名　熱田工場長　中村　真親
（法人の場合は、所在地、名称及び代表者氏名）

市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例第100条第2項の規定により、地球温暖化対策の実施の状況について、次のとおり報告します。

工場等の名称			アイチキカイコウギョウカブシキガイシャ　アツタコウジョウ 愛知機械工業株式会社　熱田工場
工場等の所在地			名古屋市熱田区南一番町１番１０号
業種等	業種		製造業
	業務部門における建築物の主たる用途		工場
事業の概要			自動車用エンジン、部分品の製造
連絡先	担当部署	会社名・担当部署	愛知機械工業株式会社　工務部工務課
		住所	〒 456 － 0055 名古屋市熱田区南一番町１番１０号
	担当者氏名		・・　・・
	電話番号等	電話番号	052-685-0355
		ﾌｧｸｼﾐﾘ番号	052-661-5402
		電子ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	・・・・・・・・・・・・
地球温暖化対策の実施の状況			別添のとおり
工場等番号			※

注１　連絡先には地球温暖化対策計画書の内容に関する担当部署名等を記入してください。
２　※印のある欄は記入しないでください。

指針第２号様式

地　球　温　暖　化　対　策　実　施　状　況　書

１　地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者（届出者）の名称	愛知機械工業株式会社
地球温暖化対策事業者（届出者）の住所	名古屋市熱田区川並町２番１２号
工場等の名称	愛知機械工業株式会社　　熱田工場
工場等の所在地	名古屋市熱田区南一番町１番１０号
業種	製造業
業務部門における建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	自動車用エンジン、部分品の製造
計画期間	令和4年4月1日　～　令和7年3月31日

２　地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月12日　～　令和6年10月10日		
公表方法		掲示閲覧	（場所）
	○	ホームページ	(HPアドレス)　http://www.aichikikai.co.jp
		冊子	(冊子名・入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-685-0355		

指針第２号様式

３　地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

（１）地球温暖化対策の推進に関する方針

環境理念

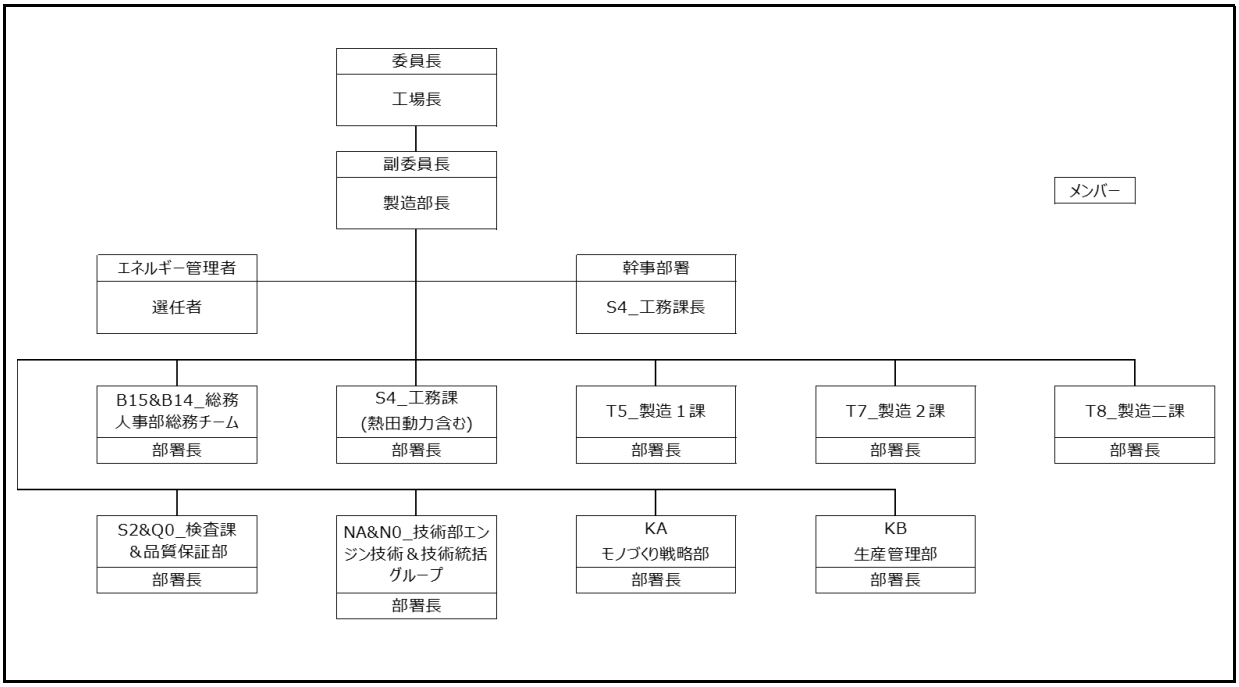
われわれ一人ひとりが環境に対する理解を深め、人や社会、自然や地球を思いやる「やさしさ」を、クルマに関連したモノづくりに活かし、より豊かな社会の発展に貢献します。

環境方針

『かけがえのない自然を、私たちの手で守り続けよう』

1. 法令等の順守と自主的改善目標に全員で取り組み、環境問題の未然防止と環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
2. 省エネルギー・省資源・廃棄物削減・リサイクルの推進を図り、地球環境の保護及び汚染の予防に努めます。
3. 社会とのコミュニケーションを推進しながら、地域に調和したより良い環境の実現に努めます。
4. 従業員一人ひとりに至る環境教育に努め、環境を大切にする企業風土を醸成します。

（２）地球温暖化対策の推進体制



指針第２号様式

４　温室効果ガスの排出の状況

計画期間　２　年度目（令和　５　年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		18,728	t-CO_2
（温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）①を除く）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO_2
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO_2
	④メタン		t-CO_2
	⑤一酸化二窒素		t-CO_2
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO_2
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO_2
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO_2
	⑨三ふっ化窒素		t-CO_2
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO_2
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		18,728	t-CO_2

５　温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（１）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量

項　　目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和　3　年度		令和　6　年度		令和　4　年度		令和　5　年度		令和　6　年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO_2		t-CO_2		t-CO_2		t-CO_2		t-CO_2
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO_2		t-CO_2		t-CO_2
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項　　目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和　3　年度		令和　6　年度		令和　4　年度		令和　5　年度		令和　6　年度	
原単位あたりの排出量	0.01682	t-CO2／台	0.01632	t-CO2／台	0.01668	t-CO2／台	0.01626	t-CO2／台		t-CO2／台
削減率（対 基準年度）			3.0	%	0.8	%	3.3	%		%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO2／台		t-CO2／台		t-CO2／台
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（２）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

・各生産ラインの出来高ＵＰ、各生産設備の待機電力の削減、空気圧縮機の効率化、エアー漏れ対策、ガス炊き冷凍機から電気ヒートポンプ式空調機へ更新、照明のＬＥＤ化、省エネキャンペーンの実施等により目標達成することができた。

備考１　温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考２　温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考３　原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考４　温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第２号様式

６　温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

（１）自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進	生産ラインの出来高を上げることにより設備の待機時間を削減し電力を削減する。	生産ラインごとによる（３％～５％ＵＰ）	一部の生産ラインを除き達成できた。
省エネルギー・省資源の推進	生産終了後、各設備の電源を切り待機電力を削減する（一部電源切れない設備あり）	一部の設備を除き生産終了後、設備の電源を切る。	一部の設備を除き生産終了後、設備の電源を切ることができた。
省エネルギー・省資源の推進	・事務のＰＣ、照明の不必要時は、こまめに電源の入切りをする。	計画的に実施する。	こまめな電源の入切は実施できた。
省エネルギー・省資源の推進	・作業能率に良好な影響をおよぼす温度を徹底する。 ・各職場ごとに責任者を決め、適温の維持を徹底する。	・冷房　室温２８℃で空調設備を停止する。 ・暖房　室温２０℃で空調設備を停止する。	実施できた。
省エネルギー・省資源の推進	工場エアー漏れの対策	超音波カメラでエアー漏れを早期発見し対策する。	超音波カメラを活用し、２２６件のエアー漏れ対策を実施できた。

指針第２号様式

（２）再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア　計画期間　2　　年度目（ 令和　5　年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区　分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電　力		t-CO_2
熱		t-CO_2

（３）環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間　2　年度目（ 令和　5　年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO_2
		t-CO_2
		t-CO_2
		t-CO_2

（４）みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO_2

（５）その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

1.ISO14001環境活動計画の教育を実施し従業員に周知徹底できた。2.省エネ活動、廃棄物の分別を従業員全員が取り組んた。3.環境教育を実施し従業員に周知徹底できた。

（６）「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

①動力保安員による巡視を実施し結果を各現場へ報告し省エネ活動に繋げた。②ペーパーレス化が浸透し廃棄物の抑制に繋がった。

エネルギー使用量（原油換算）及びエネルギー起源二酸化炭素排出量算定表

添付

計画期間２年度目（令和　5　年度）

燃料の使用		使用量		単位当たり発熱量		熱量	CO_2排出係数			CO_2排出量
		①		②		①×②	③	(参考) ②×③×44/12		①×②×③×44/12 (都市ｶﾞｽは①×③)
		数量	単位		単位	GJ	t-C/GJ		単位	t-CO_2
原油(ｺﾝﾃﾞﾝｾｰﾄを除く)			kL	38.2	GJ/kL		0.0187	2.62	t-CO_2/kL	
ｺﾝﾃﾞﾝｾｰﾄ(NGL)			kL	35.3	GJ/kL		0.0184	2.38	t-CO_2/kL	
ｶﾞｿﾘﾝ	工場等	110.0	kL	34.6	GJ/kL	3,805	0.0183	2.32	t-CO_2/kL	255
	自動車等	3.8	kL	34.6	GJ/kL	132	0.0183	2.32	t-CO_2/kL	9
ﾅﾌｻ			kL	33.6	GJ/kL		0.0182	2.24	t-CO_2/kL	
灯油			kL	36.7	GJ/kL		0.0185	2.49	t-CO_2/kL	
軽油	工場等		kL	37.7	GJ/kL		0.0187	2.58	t-CO_2/kL	
	自動車等	0.1	kL	37.7	GJ/kL	5	0.0187	2.58	t-CO_2/kL	0
A重油	工場等		kL	39.1	GJ/kL		0.0189	2.71	t-CO_2/kL	
	自動車等		kL	39.1	GJ/kL		0.0189	2.71	t-CO_2/kL	
B・C重油	工場等		kL	41.9	GJ/kL		0.0195	3.00	t-CO_2/kL	
	自動車等		kL	41.9	GJ/kL		0.0195	3.00	t-CO_2/kL	
石油ｱｽﾌｧﾙﾄ			t	40.9	GJ/t		0.0208	3.12	t-CO_2/t	
石油ｺｰｸｽ			t	29.9	GJ/t		0.0254	2.78	t-CO_2/t	
液化石油ｶﾞｽ(LPG)	工場等	89.3	t	50.8	GJ/t	4,535	0.0161	3.00	t-CO_2/t	268
	自動車等		t	50.8	GJ/t		0.0161	3.00	t-CO_2/t	
石油系炭化水素ｶﾞｽ			千Nm^3	44.9	GJ/千Nm^3		0.0142	2.34	t-CO_2/千Nm^3	
液化天然ｶﾞｽ(LNG)	工場等		t	54.6	GJ/t		0.0135	2.70	t-CO_2/t	
	自動車等		t	54.6	GJ/t		0.0135	2.70	t-CO_2/t	
天然ｶﾞｽ(液化天然ｶﾞｽを除く)			千Nm^3	43.5	GJ/千Nm^3		0.0139	2.22	t-CO_2/千Nm^3	
原料炭			t	29.0	GJ/t		0.0245	2.61	t-CO_2/t	
一般炭			t	25.7	GJ/t		0.0247	2.33	t-CO_2/t	
無煙炭			t	26.9	GJ/t		0.0255	2.52	t-CO_2/t	
ｺｰｸｽ			t	29.4	GJ/t		0.0294	3.17	t-CO_2/t	
ｺｰﾙﾀｰﾙ			t	37.3	GJ/t		0.0209	2.86	t-CO_2/t	
ｺｰｸｽ炉ｶﾞｽ			千Nm^3	21.1	GJ/千Nm^3		0.0110	0.85	t-CO_2/千Nm^3	
高炉ｶﾞｽ			千Nm^3	3.41	GJ/千Nm^3		0.0263	0.33	t-CO_2/千Nm^3	
転炉ｶﾞｽ			千Nm^3	8.41	GJ/千Nm^3		0.0384	1.18	t-CO_2/千Nm^3	
都市ｶﾞｽ（東邦ｶﾞｽ）	工場等	340.4	千Nm^3	45	GJ/千Nm^3	15,317	2.29		t-CO_2/千Nm^3	779
	自動車等		千Nm^3	45	GJ/千Nm^3		2.29		t-CO_2/千Nm^3	
その他燃料										
その他燃料							89.2620			
小計						23,794				1,312

他人から供給された電気及び熱の使用		使用量		単位当たり発熱量		熱量	CO_2排出係数			CO_2排出量
		④		⑤		④×⑤	⑥			④×⑥
		数量	単位		単位	GJ			単位	t-CO_2
電気事業者（中部電力）	昼間	27,110.9	千kWh	9.97	GJ/千kWh	270,295	0.379		t-CO_2/千kWh	10,275
	夜間	18,841.5	千kWh	9.28	GJ/千kWh	174,849	0.379		t-CO_2/千kWh	7,141
その他電気事業者	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
(事業者名)	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
その他電気事業者	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
(事業者名)	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
その他電気事業者	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
(事業者名)	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
上記以外の買電			千kWh	9.76	GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
産業用蒸気			GJ	1.02	GJ/GJ		0.060		t-CO_2/GJ	
産業用以外の蒸気			GJ	1.36	GJ/GJ		0.057		t-CO_2/GJ	
温水			GJ	1.36	GJ/GJ		0.057		t-CO_2/GJ	
冷水			GJ	1.36	GJ/GJ		0.057		t-CO_2/GJ	
上記以外の熱			GJ		GJ/GJ				t-CO_2/GJ	
小計						445,144				17,416
合計						⑦　468,938				⑧　18,728

自ら生成した熱の他者への供給※		GJ		GJ/GJ				t-CO_2/GJ	
自ら生成した電気の他者への供給※		千kWh		GJ/千kWh				t-CO_2/千kWh	
合計						⑨			⑩

原油換算エネルギー使用量　（⑦－⑨）×0.0258	12,099	kL
エネルギー起源二酸化炭素排出量　⑧－⑩	18,728	t-CO_2

※燃料を使用して生成した熱及び電気を他者へ供給した場合に限る。自然エネルギー等により生成した熱及び電気を他者へ供給した場合は含まれない。

【事業所の規模】

延床面積	71,742.00　㎡

【自動車等の数】

①　　単位（台）

燃料の種類	乗用	貨物
ガソリン	8	
軽油		1
ＬＰＧ		
天然ガス		
電気		

②その他の輸送機械

種別	数	単位
鉄道		両
船舶		隻
航空機		機

（以下は該当する場合に記入して下さい）

【排出量抑制目標に原単位排出量を用いる場合】

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量

原単位の指標	数量	単位
生産台数	1,151,631.85	台

【みなし排出量の算定に用いたクレジット等の温室効果ガス換算量】

クレジット等の種類	創出地	購入量	換算式	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
				t-CO_2
				t-CO_2
				t-CO_2
				t-CO_2

区分	再生可能エネルギー等の種類	他のものへの供給量	換算式	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電気		kWh	×　0.000379	t-CO_2
熱		GJ		t-CO_2